

寒冷地形談話会通信

1998 年度第 6 号 1999.1.29 発行

事務局：〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1
東京都立大学理学研究科地理学教室内寒冷地形談話会事務局

TEL：0426-77-1111 (Ext. 3836)

FAX：0426-77-2589

E-mail：aoyama@geog.metro-u.ac.jp

・2月例会（卒論・修論発表会）のお知らせ

日時：2月13日（土）15：00～

場所：東京大学理学部5号館6F 地理学学部講義室（エレベーターを降りてすぐ前の部屋）

今度の例会では、今年度卒業論文・修士論文を提出した方にその発表をしていただきます。卒論生6名、修論生1名の発表があります。

プログラム

- 15：00～15：25 阿部美和（筑波大・学）：スイスアルプスにおける構造土の形態と形成環境
- 15：25～15：50 瀬戸真之（立正大・学）：朝日山地の斜面地形
- 15：50～16：15 中村洋介（駒沢大・学）：丹沢・塔ノ岳における登山道の侵食とその周辺的环境変化
- 16：15～16：40 前田 豊（学芸大・学）：北アルプス太郎山周辺のハイマツ群落の構造と形成過程
- 16：40～16：50 休憩
- 16：50～17：15 若林優子（学芸大・学）：十日町盆地における河成段丘発達史
- 17：15～17：40 和田美貴代（学芸大・学）：上高地梓川河辺林におけるヤチダモ・ウラジロモミ・ハルニレの侵入に対する河川攪乱の影響
- 17：40～18：05 福井幸太郎（都立大・院）：飛騨山脈，立山内蔵助カールの永久凍土と岩屑地形の成因

発表20分，質疑応答5分です。

・12月例会の報告

12月19日（土），東京大学において，以下の発表がおこなわれました。年末恒例の

スライド大会も行なわれ、数多くの興味深いスライドを見せていただきました。5名の参加者があり、終始なごやかなムードで活発な議論が行われました。

高橋和弘（千葉英和高・非）

「ヒマラヤ紀行」

高橋氏のこれまでのヒマラヤ山行の報告が、息を飲むような迫力のある多数のスライドと共に紹介されました。山行の裏話なども聞けて楽しい発表でした。

「インド・ガングスタン（標高=6162m 1995年7月～9月）」

前半は好天に恵まれ、順調にルート工作・荷揚げを行う。8月28日・30日の2度のアタックで9名全員登頂。その後9月1日～4日にかけてBCで大雪となり、ふもとの河川の氾濫により、幹線道路が崩壊。ケイロンからクルまでキャラバンを敢行する。

「パキスタン・K2（標高=8611m 1996年5月～8月）」

全般的に不順な天候のため、数回の長期にわたる停滞を余儀なくされた。わずかな好天気についてルート工作・荷上げが行われた。テント設営できる平坦地に乏しく、上部キャンプ数をひとつ減らし、C3をショルダーに上げてファイナルキャンプとした。8月12日および14日の2度のアタックで12名が登頂。15日から天候が一変し、秋の到来を迎えた。

「ネパール・エベレスト（標高=8848m 1997年3月～5月）」

シェルパを約30名雇用し、万全を記して挑んだ。C3（7300m）までは順調に到達したが、その後諸事情により登山中止となる。

「ネパール・マナスル（標高=8163m 1997年8月～10月）」

モンスーン期間中にもかかわらず、6000m以上では雲もかからず順調であった。しかしモンスーンが明けると気温が下がり、多量の降雪にみまわれた。アタック時は8000mラインで-30℃を下回った。10月8日、9日の2度のアタックで日本人8名全員と、シェルパ3名が登頂に成功。

「ネパール・アンナプルナ 峰（標高=8091m 1997年11月～12月）」

BCまでヘリコプターで入山。C2（6000m）までは順調に進む。12月にはいり天候が悪化。BCで2mの積雪に見まわれ、雪崩の危険と異常な天候の悪さにより、登頂を断念。全員がヘリコプターで下山する。

（文責：都立大・近藤）

・名簿の訂正

通信4号に掲載した名簿に、以下の変更があります。

清水長正

・ **寒冷地形談話会 1999 年度総会のお知らせ**

1999 年度寒冷地形談話会総会を，日本地理学会春季学術大会（3 月 26～27 日，専修大学）中に開催する予定です．日時，場所については地理学会会場にて掲示，お知らせします．奮ってご参加ください．